

平成 28 年度インターンシップ実施報告 — 質の高いキャリア教育を目指して —

The Internship Program in 2016:
Toward Higher Quality Education for Future Career of SIST students

幸谷 智紀*1, 桜木 俊一*2, 服部 知美*3, 笠谷 祐史*4
小栗 勝也*5, 飯倉 宏治*6, 青島 偉夫*7, 渡邊 慎也*7

Tomonori KOUYA, Syunichi SAKURAGI, Satomi HATTORI, Hirofumi KASATANI,
Katsuya OGURI, Koji IIGURA, Hideo AOSHIMA, Shinya WATANABE

Abstract: Our Internship has been introduced into the curricula of Shizuoka Institute of Science and Technology (SIST) since 1999. This report presents the discussion about the preparation, the organization and the results of the internship program conducted in 2016. In 2016, 116 companies in Shizuoka prefecture were involved in this program by providing their own internship programs for 277 students and 136 students participated in the programs. The results of this program's past 17 years are summarized and its future prospects are presented.

1. はじめに

本学のインターンシップは、平成 11 年度に試行を行い、平成 12 年度から授業の一貫として単位を付与して実施している。本制度も開始から 17 年を経過し、企業との相互理解も深まってきている。また参加学生数もこの 3 年間は 100 名を超しており、学生の参加意識は高止まりしている。このように、本事業は人材育成の手段のひとつとして、本学のキャリア教育の中で重要な位置を占める事業として定着している。

本報告は、平成 28 年夏期に静岡理工科大学において行われたインターンシップに関して、事業計画、受入企業に対する依頼、参加学生の募集、実習内容、参加学生の成績評価、実習結果の総括など、各段階における経過および結果を昨年度までのデータと比較可能な形でまとめ、本事業によって得られた成果や問題点を明らかにし、来年度以降の実施に向けた改善に資することを目的としている。

特に、学生および受入企業からの報告書を詳細に分析し、学生がインターンシップにおいてどのような内容の実習を行い、成果として何を得心か、また、企業による学生および実習内容の評価などを検討した。さらに平成 11 年度から平成 28 年度までの 17 年間のインターンシップ実施結果を総括的にまとめ、来年度以降のインターンシップに関する展望についても述べる。

2. 平成 28 年度インターンシップの計画

昨年度の申し送りとして、以下の点が挙げられていた。

- ① 本学のキャリア支援教育が学生に広まってきたことにより、インターンシップへの関心も高まり、さらに学生の応募数が増加することが見込まれる。このことから、従来の受入れ企業との関係を深めると共に、インターンシップの内容の質向上が必要である。
- ② 実習生の態度や状況について、企業からの評価の一部に良好とはいえないものもあり、事前研修を通して基本的なビジネスマナーを身につけさせる必要性が年々高まっている。

平成 28 年度インターンシップは、これらの問題点を改善するため、以下の事業を取り入れた。

- ① 企業側への受入希望調査を一昨年、および昨年同様 4 月に開始した。
- ② 企業からの全提出物を昨年同様 Web 上で入力できるようにし、インターンシップ受入れ申込み、実習報告、評価作業等の効率化によって企業の負担を軽減した。
- ③ 学生からの書類提出や手続きを主にキャリア支援課で取り扱い、同時に挨拶や言葉遣いの指導も行った。また、正当な理由のない無断欠席、遅刻があれば単位認定を行わないことを周知徹底した。

上記施策により、事務的作業の効率化と簡便化を図りながら、学生の積極性の向上と意欲の喚起を図り、より高い教育効果が得られるインターンシップの実施を目指した。

3. 受入企業への協力依頼

地域社会との密接な連携を特色とする本学の教育の中にあつて、インターンシップ制度は地域産業との連携による、地域に役立つ人材の育成、地域の企業や地域社会との交流の推進などの観点から重要な役割を担っている。協力依頼企業の選定にあたっては、過去 17 年間の受入依頼の発送状況や、これまでの就職状況などを十分に考慮し、以下の条件で依頼状送付企業の選定を行った。

- ① 昨年まで依頼状を送付したが返事の全くない企業、インターンシップ不可の返事をいただいた企業を削除。
- ② 平成 27 年度卒業生の就職先企業のうち、通勤可能な地域の企業を追加。
- ③ 求人ナビ登録企業の中で、インターンシップ受入れが可能で、通勤可能な地域の企業を追加。
- ④ 通勤可能な地域の市役所、図書館などを数件追加。

上記条件で選考の結果、インターンシップ受入れの可能性の低い事業所を削除して、4 月に昨年度より若干少ない 523 社に対してインターンシップ事業の協力依頼を実施した。その結果、平成 28 年度においては、116 事業所・277 名分(昨年度は 104 社 228 名分)の実習テーマ受入申し込みがあった。

2017 年 3 月 3 日受理

*1 インターシップ WG リーダー, *2 機械工学科, *3 電気電子工学科, *4 物質生命工学科, *5 人間情報デザイン学科, *6 コンピュータシステム学科, *7 キャリア支援課

No	会社名	実習地	実習テーマ	実習期間	日数	受入人数	実習人数
1	株式会社アーティス	浜松市中区	ウェブサイト制作に関する業務を理解する	8/29～9/9	10日間	1	1
2	アート電子株式会社	浜松市北区	プリント基板、パターン設計、部品実装体験	9/5～9/7	3日間	2	2
3	株式会社アイゼン	浜松市南区	高精度・高品質を支える技術力・現場力を肌で感じる。	9/5～9/9	5日間	1	1
4	株式会社アクティ森	周知郡森町	接客を通してサービス業を学んでいただきます。	8/4～8/17	14日間	2	1
5	A S T I 株式会社	浜松市南区	車載電装品または制御機器の設計評価、製造工程分析の補助	8/29～9/9	10日間	3	2
6	株式会社アットエフ	南都留郡山中湖村	接客業と犬好きが集まるペットと泊まれるホテルの運営に携わる仕事です。	9/11～9/24	10日間	10	1
7	天方産業株式会社	浜松市中区	マイコンを使用したソフト作成	8/29～9/9	10日間	4	4
8	株式会社出雲殿	浜松市中区	打合せにて決定	8/8～8/12	5日間	5	4
9	磐田信用金庫	磐田市	信用金庫を理解しよう	8/15～8/19	5日間	2	2
10	株式会社エキスパート パワーシズオカ	静岡市清水区	3DCAD 体験	8/22～9/2	10日間	5	3
11	エズカ工業株式会社	磐田市	製造業におけるいろいろな業務	9/6～9/17	10日間	1	1
12	榎本工業株式会社	浜松市北区	工作機械設計の基本を学ぶ	8/16～8/26	10日間	2	1
13	株式会社遠鉄ストア	浜松市中区	小売・流通業の業務内容について	8/10～8/16	5日間	10	5
14	株式会社オーミ	磐田市	物づくりの基本となる金型づくりを体験する	9/5～9/16	10日間	2	2
15	株式会社かきこや	浜松市中区	相手（お客様、一緒に働く従業員）をおもいやれる接客	9/5～9/16	10日間	1	1
16	掛川市役所	掛川市	地方行政事務	8/22～8/26	5日間	1	1
17	株式会社恭和	静岡市駿河区	C A T I A V 5 を利用し、ソリッド、サーフェイス 3D モデリングの実務経験	8/8～8/12	5日間	2	2
18	クオリテックファーマ株式会社	東京都港区	CMO 企業の仕事について知ろう	8/24～8/26	3日間	2	2
19	株式会社コーリツ	磐田市	就業を通じ、実際に働くということの厳しさや喜びを体験し、将来の就職活動に生かす。	8/29～9/9	10日間	2	2
20	株式会社サイダ・UMS	焼津市	ものづくりの現場を実際に見て、おもしろさを体験する。	8/29～9/9	10日間	3	2
21	サイバーエアリサーチ株式会社	三島市	希望職種による	9/12～9/16	5日間	2	2
22	坂井モーター株式会社	袋井市	身近だが意外と知らない「車」の基礎技術を実車で学ぶ。	8/29～9/9	10日間	2	1
23	三栄ハイテックス株式会社	浜松市東区	マイコンボードを使用した音響機器の開発体験	8/29～9/2	5日間	1	1
24	三明機工株式会社	静岡市清水区	最先端の機械開発に挑む研究開発型の機械メーカーでの、“ものづくり”の醍醐味、愉しさ、面白さを存分に感じ取れる5日間を体験して下さい!!	9/12～9/16	5日間	2	2
25	株式会社静岡制御	静岡市葵区	制御盤製作の基礎知識の勉強と実習	9/5～9/16	10日間	2	1
26	静岡ビルサービス株式会社	袋井市	建物維持管理	8/22～8/30	9日間	1	1
27	株式会社システック	浜松市北区	インターンシップを通じて「何のために働くか」「働く意味・意義」を考える	9/5～9/16	10日間	2	2
28	株式会社静鉄ストア	近隣店舗	商品を売る!!	9/5～9/14	10日間	2	2
29	島田市役所	島田市	市役所の幅広い業務の中から、関心のある業務を体験できます。	8/22～8/26	5日間	2	2
30	社会福祉法人春風会	沼津市	高齢者との触れ合いの中で、福祉の一端を理解して今後の生活に役立てる。	8/29～9/2	5日間	2	1
31	株式会社食鮮館タイヨー	静岡市葵区	接客	8/4～8/14	10日間	1	1
32	株式会社親和製作所	湖西市	部品加工の工程細分化で最新設備によるテクニカルな部分と人間のオペレーション技術の入門実習	8/4～8/11	6日間	2	1

33	杉山メディアサポート株式会社	浜松市 北区	印刷とは	9/5~9/9	5日間	2	2
34	鈴与システムテクノロジー株式会社	静岡市 清水区	社会人としての基礎知識やビジネスマナーを学ぶ	8/29~9/2	5日間	3	3
35	株式会社スペースクリエーション	浜松市 南区	自動車研究開発動向と試験機の機能の理解・把握	8/29~9/9	10日間	2	1
36	株式会社セイユー	富士宮 市	未定	9/5~9/9	5日間	1	1
37	高松電機株式会社 浜松事業本部	浜松市 東区	自動制御がどういうものか、どのようなところで必要とされているのか見て頂く。	9/5~9/16	10日間	2	2
38	株式会社田子重	静岡、 焼津、 他	スーパーマーケットでの作業	8/29~9/2	5日間	3	3
39	茶夢茶夢ランド菅山園	牧之原 市	新しい食文化の創造	8/22~8/31	10日間	6	1
40	中部フーズ株式会社	島田市	成長著しい中食専門企業の製造や衛生管理	8/8~8/19	10日間	5	1
41	株式会社ティージェイエス	静岡市 清水区	お客様に喜ばれるシステムを作ってみよう	9/5~9/16	10日間	1	1
42	株式会社テクノサイト	島田市	Java Web アプリケーション開発 (プログラミング~システムテスト)	8/29~9/9	10日間	2	2
43	東海サーモエンジニアリング株式会社	浜松市 東区	空調設備の設計実習、冷媒配管加工実習、現場見学、フロンガス回収実習	9/1~9/8	6日間	2	2
44	東名電機株式会社	富士市	配電盤・制御盤の組立	9/5~9/16	10日間	4	3
45	株式会社東横イン掛川駅新幹線南口	掛川市	ホテルの顔でもあるフロントでのお客様対応	8/24~8/28	5日間	2	2
46	トッパン・フォームズ東海株式会社	掛川市	生産設備の保全のうえで必要な、機械、電気についての技能の確認	9/5~9/16	10日間	4	3
47	豊橋鉄道株式会社	豊橋市	大卒総合職における職場実習	8/18~8/31	10日間	1	1
48	株式会社ニッパ	浜松市 南区	画像処理を使用した最先端検査工程と 3DCAD を使用したダントツ金型設計を体験しよう!	9/5~9/16	10日間	2	2
49	株式会社ハウジーホームズ	静岡市 葵区	各部署の業務を体験していただき、皆さんに住宅業務の理解を深める。	9/9~9/13	5日間	5	5
50	法多山尊永寺	袋井市	相手の気持ちを考える (参拝者の目線を大切にした境内管理)	8/27~9/5	10日間	3	3
51	株式会社浜松ハイテック工業	浜松市 東区	将来の自分の仕事を体感して、夢につなげて下さい。	8/18~8/20	3日間	3	1
52	株式会社ヒノデ スーパーオートボックス静岡中原	静岡市 駿河区	「整備士資格の取得はオイル交換から」	8/22~8/26	5日間	2	2
53	袋井市文化協会グループ 袋井市月見の里学遊館	袋井市	文化施設での事業の企画運営を体験できます。	8/25~8/29	5日間	2	2
54	袋井市役所	袋井市	一般行政事務、事業運営の補助	8/24~8/30	5日間	3	3
55	袋井設備株式会社	袋井市	顧客の求める住環境、生産環境を創造し地域社会に貢献する。	9/5~9/16	10日間	2	2
56	富士市役所	富士市	要望により調整	8/17~8/23	5日間	2	1
57	富士ゼロックス静岡株式会社	浜松市 中区	お客様にゼロックスの複合機を快適にお使いいただく為の保守・サービスの現場を体験。	8/29~9/2	5日間	1	1
58	株式会社藤田鉄工所	掛川市	打合せにて決定	9/12~9/22	9日間	2	1
59	株式会社富士ホンダ	富士市	先輩社員との同行等を通じて働く事を学ぶ	8/4~8/12	9日間	2	1
60	ベルファーム株式会社	菊川市	次世代型農業の現場を体験して「日本農業」の重要性を考える	8/8~8/22	10日間	5	1
61	ポーラ化成工業株式会社 袋井工場	袋井市	製品品質検査 (受入~出荷)	9/5~9/9	5日間	1	1
62	株式会社ホテル銀水荘	静岡県 賀茂郡	おもてなしトップクラスの旅館でおもてなしを学んでみませんか?	8/5~8/20	15日間	3	2
63	牧之原市役所	牧之原 市	市役所業務	8/15~8/17 9/1~9/2	5日間	6	1
64	松本印刷株式会社	榛原郡 吉田町	多種の職種が経験できます。	8/22~8/26	5日間	1	1
65	株式会社メガネ流通センター	近隣店 舗	メガネ製作までの流れを知る	9/1~9/8	6日間	1	1
66	焼津市役所 (焼津図書館)	焼津市	図書館業務一般	9/6~9/10	5日間	1	1

67	矢崎化工株式会社	静岡市 駿河区	現場改善機器の設計・制作体験 等	8/22~9/2	10日 間	1	1
68	やまと興業株式会社	浜松市 浜北区	商品の開発から納入まで	9/5~9/16	10日 間	2	1
69	山梨金属工業株式会社	藤枝市	日本の自動車産業に於ける金型の役割とものづくり原点を知る。	9/5~9/9	5日間	2	1
70	株式会社ユーシ・イレブン	富士宮 市	パッケージを通してブランディングについて知ってもらう。	8/29~9/9	10日 間	3	3
71	ユニインフォメーション株式会社	掛川市	ソフトウェア開発プロセス	9/5~9/16	10日 間	1	1
72	ユニ・チャームプロダクツ株式会社	掛川市	モノ創り、技術者の魅力	8/4~8/9	5日間	3	3
73	株式会社Link・ambition	静岡市 葵区	「人財」のプロとして雇用を創出	9/5~9/9	5日間	2	1
74	リンナイテクニカ株式会社	掛川市	工程管理技術の基本を学び、現場作業の改善を実施	8/22~9/2	10日 間	2	2
75	株式会社レオパレス 21	浜松市 中区	ヒューマンスキルの重要性と実地体験を通じたビジネスフレームワーク	9/5~9/9	5日間	2	2
76	株式会社ロジック	浜松市 中区	エンジニアの仕事とは、	9/9~9/16	6日間	2	2
77	株式会社ワールドエンジニアリング	三島市	見積書作成、設計図作成、工事現場監督	9/5~9/16	10日 間	3	1
78	静岡市役所	静岡市 葵区	地方行政事務	8/9~8/14	5日間	公募	1

表2 実習学生の学年・学科別人数

学科	学年		大学院	計
	2	3	1	
機械工学科	3	22	0	25
電気電子工学科	3	25	0	28
物質生命科学科	1	25	0	26
コンピュータシステム学科	0	28	0	28
人間情報デザイン学科	0	29	0	29
計	7	129	0	136

表3 実習企業地域別内訳

地区	事業所数	地区	事業所数	地区	事業所数
浜松市	23	富士市	3	沼津市	1
静岡市	12	富士宮市	2	西伊豆町	1
掛川市	8	三島市	2	森町	1
袋井市	7	牧之原市	2	吉田町	1
磐田市	4	湖西市	1	豊橋市	1
島田市	3	菊川市	1	山梨県	1
焼津市	3	藤枝市	1		

表4 インターンシップ事前・事後研修会、報告会 出席者状況

学科	第1回	第2回	第3回	報告会
機械工学科	52	29	23	23
電気電子工学科	42	33	26	24
物質生命科学科	37	28	27	24
コンピュータシステム学科	46	32	28	27
人間情報デザイン学科	54	35	29	27
計	231	157	133	125

景気概況的には平成 28 年度は昨年と比べて好況感は薄れたものの、企業の新卒採用意欲は引き続き高く、受入れ企業数、受入れ可能募集人数ともに昨年より増加して過去最高を記録した。これは本学のインターンシップ制度への地元企業の理解が広まってきた事と、依頼企業の選択に関して、事務局職員の多大なる努力の成果である。

4. 参加学生募集と派遣企業の決定

4 月の履修ガイダンスなどを利用し、全学学生に対して事前研修およびインターンシップ実習への参加要請を行った。また、報告書の提出と報告会および事後研修全てに参加しなくては単位の取得ができないことを告知した。その上で、インターンシップ参加希望者には 4 月 19 日の第 1 回の事前研修をはじめとして、全 3 回の事前研修を実施した。参加希望学生と派遣企業の決定に当たっては、受入企業側から提示された「実習テーマ」をもとに、学生が実習内容をよく検討した上で希望企業を選定し、第 5 希望までの受付を行った。希望学生が実習定員を上回った企業については、学生の意欲や専門分野と実習内容の関連等を考慮して選考を行った。また、学生の通勤の可能性についても検討し、通勤に特に時間がかかりそうな学生については個別に確認を行い、派遣学生を決定した。このように、極力学生の希望が優先されるよう配慮し、78 社(昨年度は 67 社)に 136 名(同 123 名)の実習生を派遣することができた。実習生を派遣した企業ごとの実習期間、派遣実習生の人数などの一覧を表 1 に示す。また表 2 および表 3 に、学年別および学科別の実習生数の内訳および受入企業の地域別内訳を示す。

5. 事前教育について

前述したように、4 月 19 日から 3 回にわたり事前研修会を開催し、インターンシップを受けるにあたり、基礎的必要事項や心構えなどを説明した。第 1 回事前研修は、231 名(昨年度は 238 名)の参加があり、300 講義室での開催となった。第 1 回事前研修の内容は、インターンシップの概要とインターンシップに参加する上での考え方や心構え、履修手続き等について説明を行った。また、近年採用に際して特に重視されている社会人基礎力について改めて紹介し、この力を養うためにインターンシップを役立てることができることを強調して、動機付けを行った。第 2 回事前研修では、先輩による体験報告、および、実習先決定報告書や履歴書等の作成についての説明を行った。第 3 回事前研修では、実習に向かうにあたっての諸注意事項、報告書類等提出物の説明をおこなった。以上 3 回の事前研修によって、学生の動機を十分に高めるとともに、ビジネスマナーの重要性に関する理解の徹底をはかった。

近年は、初年次からキャリア支援教育がカリキュラムに組み込まれ、十分なキャリア教育が行われているため、昨年同様事前研修は 3 回とした。3 回にわたる事前研修によって明確な目的意識を持った学生を実習先に送ることができたと考えられ、回数に関しては 3 回で必要

十分であると思われる。事前研修への参加者数を表 4 に示した。各事前研修はビデオに収録し、事前研修当日に実験・実習やその他の理由により参加できなかった学生も、後日 DVD を見て内容に関するレポートを提出することにより、事前研修の補講を受けることができるよう配慮した。第 1 回事前研修参加者 231 名(昨年度は 238 名)の内、136 名(昨年度は 123 名)が企業実習を行うこととなった。第 1 回事前研修参加者中の実習参加率は 58.9%(昨年度は 53.9%)となり、参加率は昨年度と比べて増加し、参加人数も昨年度を 10 名以上上回った。ここ 3 年は概ね 100 名を超える参加者を得ており、本年度は過去最高の参加人数になった。昨年度は無断欠席・事前連絡なしの遅刻者が目立った分、本年度は事前研修でそのようなことがないように厳重注意したことで、態度不良による不合格者は出なかったが、受講態度の悪さ、社会人としての能力、学習能力の欠如を指摘する声の一部企業から伝えられた。従って、いたずらに参加者数・参加割合を増やす段階はとうに過ぎ、今後は学生自身の人生を構築するための職業キャリアへの覚醒を促しながら、インターンシップ参加者の質を上げるべき時期であると言える。

6. 受入企業数と参加学生数の推移

インターンシップの実習を行うにあたって、まず本学と実習生受入企業との間で“覚え書き”を作成した。これは双方の義務や責任を明らかにするとともに、万一の場合に備えて、実習生の受入に関して大学および企業の双方が遵守すべき事項を確認するためであり、双方が署名捺印した。

また学生は実習に先立って、参加申込書の提出時に助言教員の承認をうけることになっている。これは本学教員への連絡だけでなく、学生が自から参加の意思を示すことで、キャリア教育への参加の機会を増やすためである。

インターンシップ実習は、8 月 4 日から 9 月 23 日までの本学の夏期休業期間中に各企業において行われ、滞り無く終了することができた。各事業所における実習期間中は、インターンシップに対する協力の御礼と学生の実習状況の視察を目的として、受入れ企業に担当教員が外向き、実習受入担当者と面談を行った。

本年度に各受入企業等において実施されたインターンシップの実習テーマについて分野別に分類したものを表 5 に示した。本学でインターンシップを実施した 10 年間の受入企業数、実際に実習を実施した企業の数、募集学生数、参加学生数、単位取得学生数の変化を図 1 に示した。今年度は受入れ企業・実施事業所数・募集実習生数は昨年よりも 10%程度増加している。参加学生数も、キャリア支援教育の継続的な成果が現れ、昨年よりも 10%程度増加し、順調な増加傾向にある。10 年間の参加学生の累計は 920 名となった。参加学生の学科別内訳を図 2 に示した。本年の特徴は、人間情報デザイン学科・コンピュータシステム学科の学生の参加人数の増加が顕著であった。

表5 インターンシップ実習テーマの分野別分類

<p>【機械設計・開発・などの分野】 産業用機械器具の設計・製作・メンテナンス、機械制御装置の設計・試作・販売、試作機の性能確認、自動化・省力化装置及び各種検査装置等の設計・製作、物流改善機器・福祉介護機器・プラスチック製品・自動車内装部品の開発・生産から販売、輸送用機器部品製造と光技術応用製品の開発・製造・販売。</p> <p>【生産・機械加工・試作・もの作りなどの分野】 自動車・オートバイ用クラッチ・製造、物づくりの基本となる金型作りを最新の設備と職人の技と若手技術者が一体となった物づくり、自動車・オートバイ・農業機械等の精密機能部品製造、鉄鋳物製造(プレス金型用、工作機械・産業機械用鋳物製造)、自動車輸送用機器部品製造販売、二輪用マフラー製造、各種プラスチック生計加工品の製造、二輪車・四輪車・汎用機械用エンジン部品及び車体部品の製造、ゼロックス複合機を活用したオンデマンド印刷業務全般、チラシ・カタログ・パンフレット・広報誌などの紙媒体としての印刷、ペーカリー(製造小売業)、紙オムツ・生理用品等の製造。</p> <p>【検査・測定・実験・などの分野】 空気調和設備(温度・湿度・空気清浄度などの室内環境の調整)、電気・電子・機械・情報通信のシステム機器と部品取扱い。</p> <p>【電気・電子関係の開発・実験・などの分野】 車載電装品・ホームエレクトロニクス・情報通信機器・制御機器等の製造・販売、自動車用コネクタの開発・生産、生産工場設備(自動制御装置)の設計・製作・施行、輸送機器などの電装部品の開発・製造・販売、電気・通信機器や放送用機器などの多様な製品のLSI設計ソフトウェアの開発・ハードウェア</p>	<p>ECO製品の設計開発・製造、配電盤・制御盤の設計・製造精密自動車部品・精密家電部品の製造・計測器・ロボットシステムの開発・製作、電気設備工事の施工管理。</p> <p>【物質科学関係の開発・実験・などの分野】 発酵技術を駆使した医薬中間体・原薬の製造、農業(モモ、ブドウ、キウイ)・ジャム製造販売・農業教育、化粧品製造・研究から生産まで一貫した体制での作り。</p> <p>【情報関係などの分野】 ウェブサイトの構築と運営・ICTソリューションの提供・インターネットを利用したメディア事業・ウェブシステムの研究開発及び提供・インターネット通販事業、コンテンツ(映像系・Web系)制作・ITシステム構築、物流・商流・航空など幅広いシステム開発やデータセンター・ネットワークサービス・お客様にトータルソリューションを提供するシステムインテグレータ。</p> <p>【企業経営・管理・などの分野】 山と川に囲まれた自然の中でスポーツや工芸体験ができる観光施設の接客サービス、水産製造加工メーカー直営のマリンステーションの接客サービス、金融業、職場体験・グループワーク、スーパーマーケットにおける業務、ビルメンテナンス総合管理、自動車の買取・販売、ホテルにおける業務、ファイナンシャルプラン業務、農産物を生産から販売する地域資源プロデュース業務、自動車ディーラ。</p> <p>【福祉活動・団体活動などの分野】 地方行政事務、地方公共団体事務、公共文化施設における業務、境内管理(清掃・まき割り・伐採など)・受付業務(参拝者への対応など)、図書業務、子供科学体験館・プラネタリウムでの運営補助と接客業務。</p>
--	---

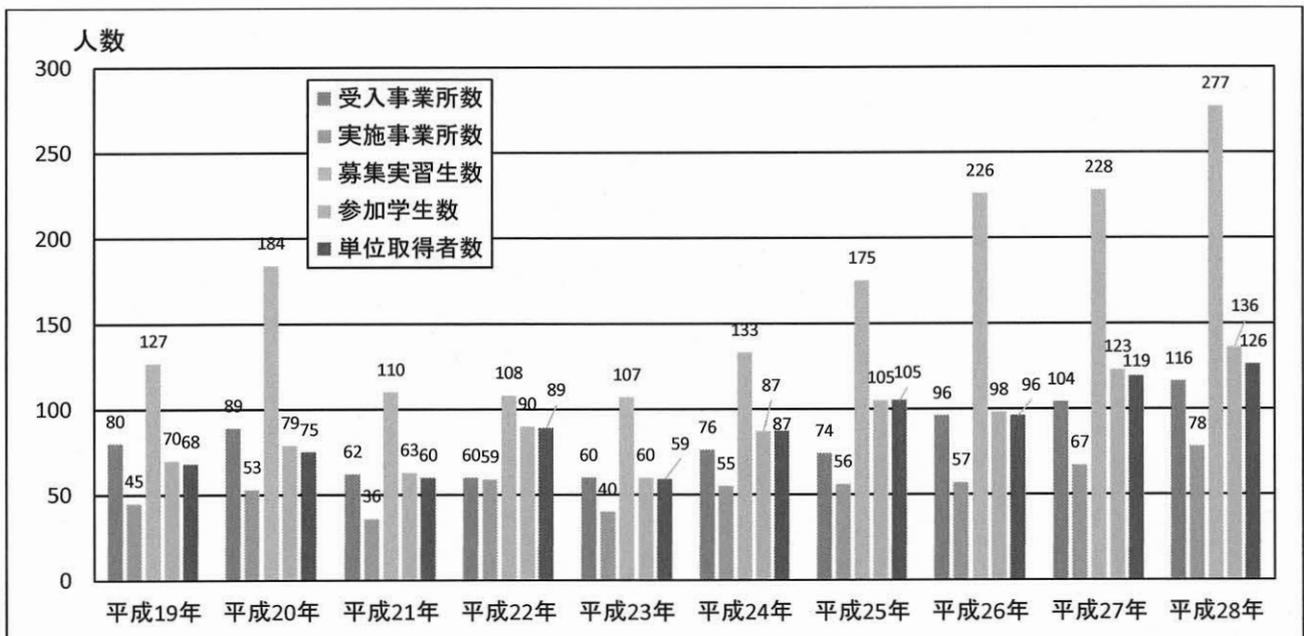


図1 受入企業等の数および参加学生数(10年間の変化)

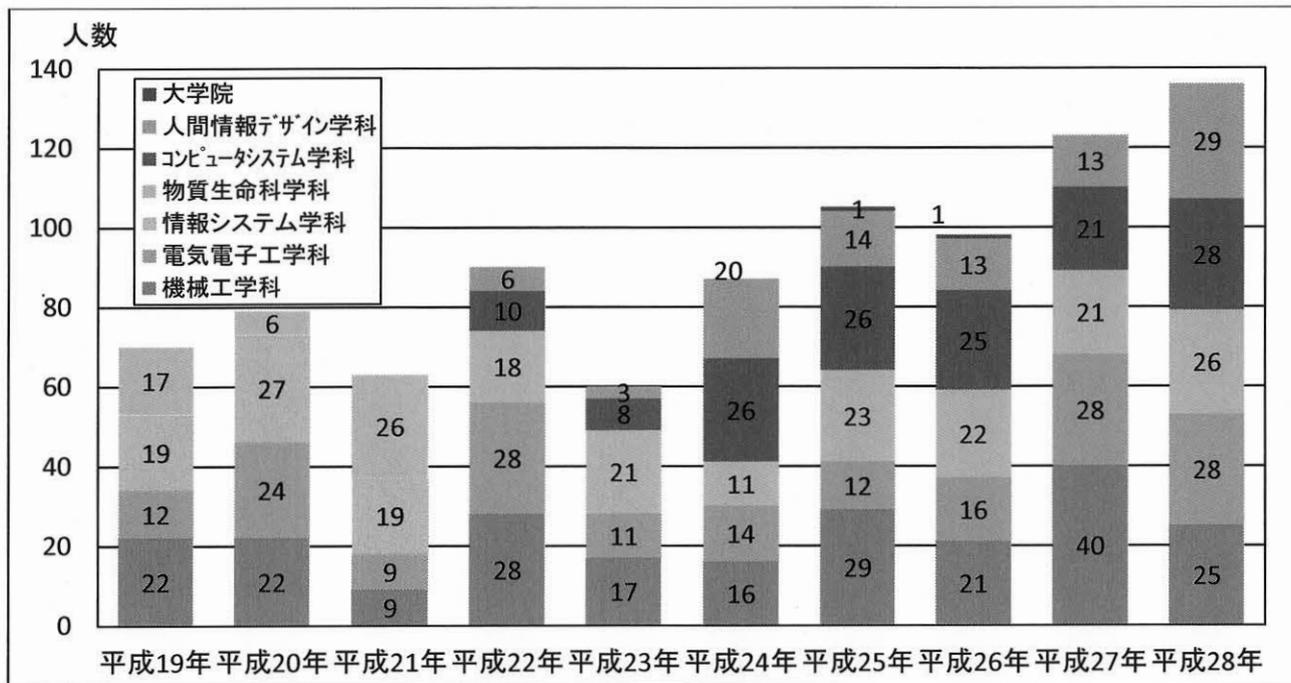


図2 参加学生数の内訳 (10年間の変化)

7. インターンシップで学生は何を得たか？

以下では、学生の実習報告に基づいて、実習によって得られた成果、実習を行った感想、実習に関する反省などについてまとめた結果を報告する。

7.1 実習内容

学生が実際にに行った業務内容の詳細を事項別にまとめ、よく行われていた主要な業務内容を図3に示す。同率25.4%で1位は、「製作、組立、加工」と「営業、接客、販売」であった。前者は昨年度より3割減、後者は昨年度より4割増であった。3位「CAD、画面設計、画像処理」は昨年度の3.5倍、4位「ソフトウェア開発、HP作成」は昨年度の1.5倍に増加しており、ソフト寄りの実習が増加した。一方、「実験、測定、試験、分析」は2.2%で、昨年度の4割、一昨年度の2割に減少した。実験、測定をもう少し多く実習してほしいと思ったが、景気がよく、企業の持つ機械稼働率が高くなり、結果的に実験、測定作業の余裕がなくなった可能性もある。

7.2 実習によって得られた成果

「実習の成果」についてまとめたものが図4である。1位の「企業や職場の雰囲気がわかった」は28.1%、2位の「企業の現場を見ることができた」は17.7%で、その他の項目も昨年度とほぼ同率であった。どのような職場へ行っても、学生の感じる所は等しいと思われる。

アンケートの自由記入欄に「インターンシップはとても貴重な体験ができると感じた」など、インターンシップでの実習が自分のためになった旨の記述が多くみられた。さらに、「インターンシップに行くことにより、勉強意欲が上がるので、3年生ではなく2年生の時に強く勧めた方がよいと思う」との意見もあった。

7.3 実習に関する感想

「実習に関する感想」についてまとめたものが図5である。1位の「貴重な体験ができた」は25.9%、2位の「経

験を生かして自分の進路を決めたい」は15.2%であった。今回も経験を生かし今後につなげる目的は達成されたと考えられる。同率で3位の「社会人の責任の重さを実感した」、「実習担当者の助言がためになった」は14.9%であった。前者は、昨年度は5位で11%であり、本年度は若干増加した。後者は昨年度とほぼ同率であり、インターンシップ先の配慮が垣間見える。さまざまな仕事から充実感を味わえたとともに、社会人としての責任の重さを実感したものである。「問題点の解決が面白かった」は1.2%であり、昨年度の4.0%より減少している。

インターンシップは、現実の厳しさを知り、自分の進路を決めるためのトリガを与える貴重な機会を提供しており、重要な実習の一つであると思われる。今後も、多くの学生をインターンシップに参加させる方策を検討していく必要がある。

7.4 実習に関する反省

実習に関する反省として記載された事項を整理したものを図6に示す。1位から3位までの「うまく話や説明ができなかった」、「基本的、応用的な知識が足りなかった」、「もっと質問するべきだった」は、昨年度とほぼ同率であった。本学学生のコミュニケーション能力や学力不足が感じられる。4位の「集中力が途切れてしまった」は、昨年度の17%から13.4%となり、一昨年度と同率となった。1位から4位までは、順位に多少変化があるものの、一昨年度、昨年度と本質的には同様であると言える。

アンケートの自由記入欄に「電話可能期間に入ってから企業に電話したにも関わらず、自分の履歴書がまだ届いておらず誤解が生じたため迅速に行ってほしい」、「インターンシップ先との連絡や情報の共有をもう少し密にしてほしい」との意見があった。これらの要望について、改善する必要があると感じた。

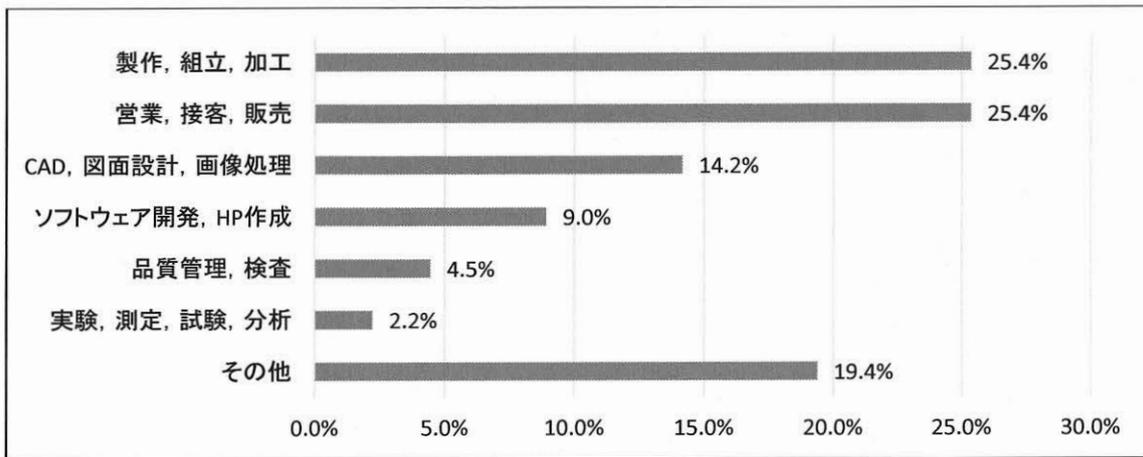


図3 実習内容の詳細

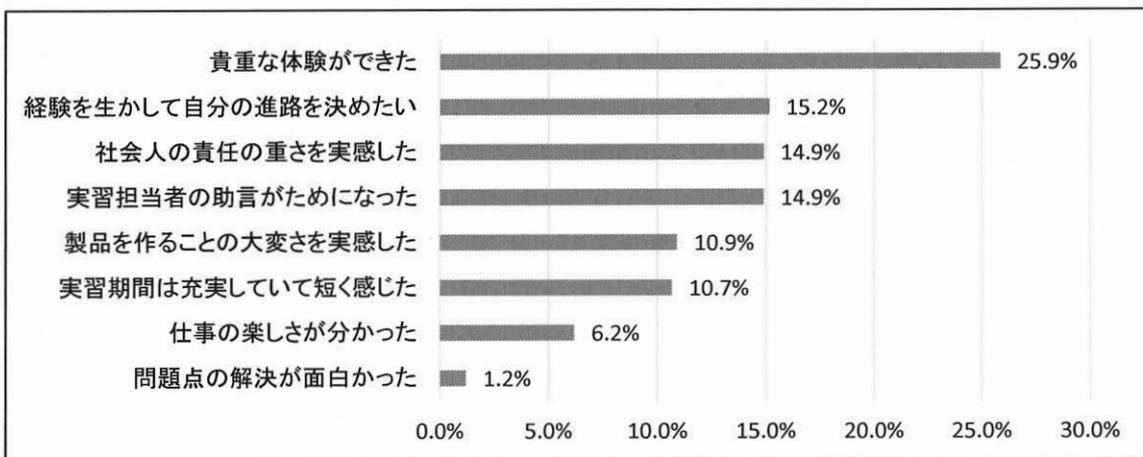


図4 実習によって得られた成果

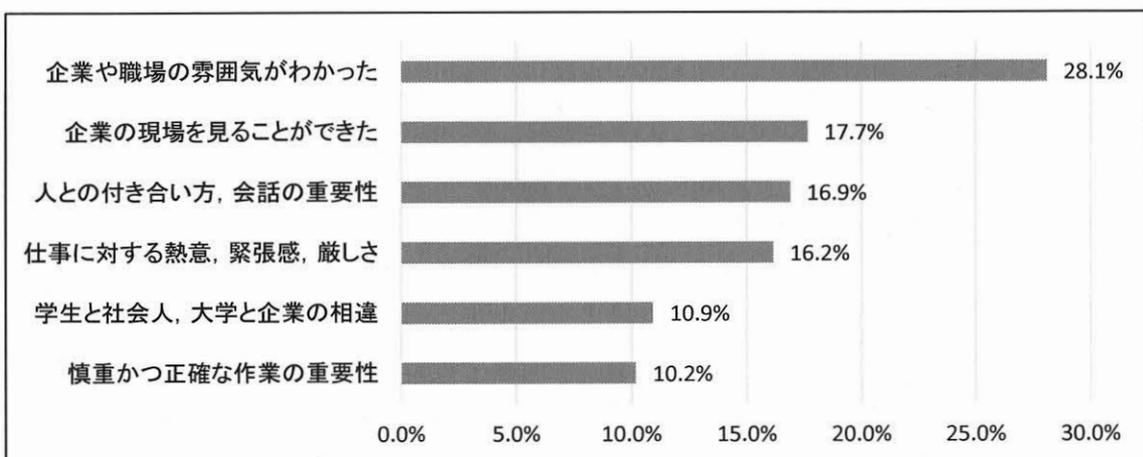


図5 実習に関する感想

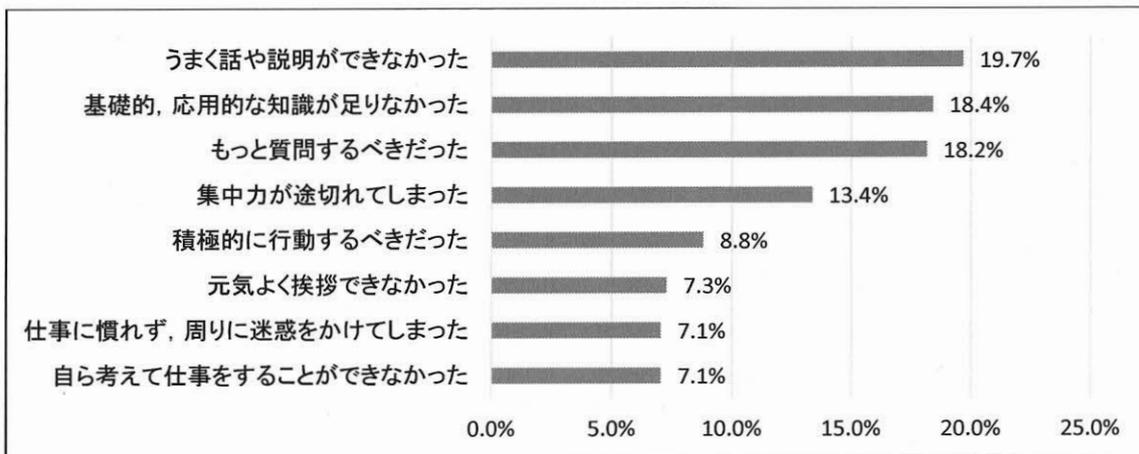


図 6 実習に関する反省

表 6 インターンシップ実習生に対する個人別評価 (5段階評価, 回答数 136)

評価項目	評点					平均点
	大変良い	やや良い	普通	やや劣る	劣る	
	5	4	3	2	1	
勤務状況(欠勤、遅刻、早退などの状況)はいかがでしたか?	96 70.6%	22 16.2%	16 11.8%	2 1.5%	0 0.0%	4.6
勤務態度(言葉遣い、挨拶、返事などは)いかがでしたか?	55 40.4%	46 33.8%	27 19.9%	7 5.1%	1 0.7%	4.1
実習内容はよく理解できていましたか?	45 33.1%	59 43.4%	32 23.5%	0 0.0%	0 0.0%	4.1
仕事に対し、よく実行・行動・努力していましたか?	51 37.5%	59 43.4%	24 17.6%	2 1.5%	0 0.0%	4.2
仕事は正確で良い結果を出していましたか?	41 30.1%	47 34.6%	46 33.8%	2 1.5%	0 0.0%	3.9
創意工夫の姿勢は見られましたか?	30 22.1%	50 36.8%	50 36.8%	5 3.7%	1 0.7%	3.8
仕事に対する積極性はいかがでしたか?	42 30.9%	56 41.2%	36 26.5%	2 1.5%	0 0.0%	4.0
責任感を持てていましたか?	50 36.8%	58 42.6%	24 17.6%	4 2.9%	0 0.0%	4.1
協調性はいかがでしたか?	45 33.1%	49 36.0%	38 27.9%	3 2.2%	1 0.7%	4.0
全体評価	56 41.2%	55 40.4%	22 16.2%	3 2.2%	0 0.0%	4.2

8. インターンシップ実習の評価（受入企業、参加学生、訪問教員）

インターンシップ終了後、実施状況をできるだけ詳しく調査して問題点を把握するために、昨年度と同様に受入企業、参加学生および訪問教員に対してアンケート調査を実施した。それらの結果について以下に述べる。

8.1 受入企業による実習生の評価

単位認定のため、学生の実習状況の評価を行う必要がある。そのため企業の実習担当者に、個々の実習生の実習状況に関する評価を依頼した。評価は10項目について各5段階で評価するものとした。その結果(回答数136)を表6に示した。全体評価の平均点は、昨年度よりも0.1上がり4.2であった。個々の評価項目の平均点を比較すると、「勤務状況」と「正確さ」は昨年度と同じ値で、「勤務態度」は-0.1、「実習内容理解」、「責任感」及び「協調性」は+0.1、「実行・行動・努力」、「創意工夫」及び「積極性」は+0.3となり、全体的に昨年度を若干上回る評価であった。

各評価項目において、「大変良い」の評価を受けた学生の割合は、「勤務状況」と「勤務態度」が昨年度を下回り、他の全ての項目で昨年度を上回っていた(昨年度の“大変良い”の評価の割合は、「勤務状況」:73.2%、「実習態度」:48.0%、「実習内容理解」:32.5%、「実行・行動・努力」:34.1%、「正確さ」:25.2%、「創意工夫」:18.7%、「積極性」:27.6%、「責任感」:31.7%、「協調性」:27.6%、「全体評価」:35.8%)。昨年度に顕著な低下が認められた「協調性」に対する評価や「正確さ」「創意工夫」及び「責任感」等が、今年度は上昇しており、昨年度のコミュニケーション力に問題が見られた学生の割合が今年度は改善されつつあることが認められた。

一方で、「やや劣る」の評価を受けた学生の比率は、「責任感」で若干昨年度を上回った以外、全ての項目で昨年度を下回っていた(昨年度の“やや劣る”の評価の割合は、「勤務状況」:1.6%、「勤務態度」:4.9%、「実習理解」:2.4%、「実行・行動・努力」:2.4%、「正確さ」:2.4%、「創意工夫」:8.1%、「積極性」:9.8%、「責任感」:2.4%、「協調性」:3.3%、「全体評価」:3.3%)。特に、「積極性」と「創意工夫」においては昨年度よりも、それぞれ4.4%及び8.3%下回っており、受身の姿勢で実習に参加し、積極性に欠ける学生の割合がやや減少したと思われる。

表7に、インターンシップ実習生に対する個人別評価の所見として述べられたものを示した。多くの学生については良い評価がされていた。一方で昨年度と同様に「挨拶ができない」、「積極性に欠ける」、「コミュニケーションをとってほしい」等の問題点を指摘する意見もあった。学生の性格によるものと思われるが、これを機会に社会人としてのマナーや学生と社会人の違い等を本人が考え、今後改める様に努力して欲しいものである。

8.2 受入企業によるインターンシップの評価

受入企業担当者によるインターンシップに関する評価結果を図7に示した。「実習内容」「実習態度」「実習全般」いずれの項目も、95%以上の回答が「適切」あるいは「ほぼ適切」という結果で昨年度の90%を上回っており、「不適切」は今年度も昨年度同様全項目で0.0%であった。昨年度と今年度の結果と比較すると「実習内容」と「実習態度」が昨年度の50%前後から今年度は60%後半に大きく増加し、「ほぼ適切」は昨年度の40%前後から今年度20%後半に減少していることから、昨年度の課

題であった内容の見直しが適切に行われたものと考えられる。

一方、「実習全般」についての「やや不適切」の割合が昨年度1.5%から今年度4.6%と増加しており、事前研修の更なる充実や、インターンシップへの参加に相応しくない学生の受け入れを見合わせる等の措置も引き続き必要と考えられる。昨年度に提示された、「実習内容」について「不適切」と回答した一部の企業からの「怪我をさせられない」、「学生のやりたい仕事とマッチングしない」、「仕事内容を理解せずに参加しているのでは」などの意見は、今年度は無くなっており、唯一「この業態にはあまり関心が無いような感じを受けました」との所見があり、来年度の実習先の決定の際、考慮する必要があるかもしれない。

8.3 学生によるインターンシップの評価

参加学生達自身によるインターンシップに対する評価結果を図8に示した。「実習内容」、「実習環境」、「指導内容」のいずれの項目も、満足度は昨年度に引き続き高くなっており、「適切」、「ほぼ適切」、「やや不適切」、「不適切」の回答数の比率も、昨年度と大きく変化していない。唯一、「実習内容」について「やや不適切」の割合が昨年度の1.1%から今年度は3.7%と上昇しており、昨年度同様に「実習内容」に関わる事項については、今後も継続的な検討が必要と考えられる。例年11月に学内で開催される参加学生によるインターンシップ報告会では、今年度も短い期間のインターンシップ期間でもさまざまな体験を得たことが報告され、また、そのことにより学生が成長した様子が見られたのは喜ばしいことであった。インターンシップでの体験が、学生の今後の就職活動をはじめとした人生に役に立つことを願ってやまない。

8.4 実習先訪問担当教員の報告

平成28年8月7日～9月21日の期間、本学教員53名が71箇所の実習先企業・事業体を訪問し、インターンシップ先への御礼の挨拶と本学学生の実習状況を確認した。具体的には、各企業の実習生に対する受け入れ担当者または企業側代表者、および可能な場合には実習学生本人と面談し、仕事の内容、状況、学生の対応などの観察・聞き取りを行った。教員にはその結果をアンケートの形で報告することが求められており、インターンシップ先での学生の実習への取り組み、意欲、そして、インターンシップ先企業の実習内容、その他についての回答が寄せられた。その結果を図9から図11に示す。

図9は、学生の実習への取り組みに対する教員の評価結果を示している。教員は97%の学生の実習への取り組み(非常に真面目である79.1%+やや真面目である17.9%)を真面目であると評価していた。この割合は、昨年度の割合(非常に真面目である72.1%+やや真面目である21.3%=93.4%)よりも若干上回っている。

図10は、実習生の意欲に対する教員の評価結果を示している。教員は95.4%の学生が意欲的に取り組んでいる(非常に意欲的63.6%+やや意欲的31.8%)と評価していた。この割合は、昨年度の割合(非常に意欲的67.2%+やや意欲的26.2%=93.4%)よりもやや上回っているが、ほぼ同じである。

図9と図10の結果を総合すると、インターンシップに参加した今年度の学生の実習態度は、昨年度の学生と同程度か、それ以上に、真面目かつ意欲的であると教員は評価したといえる。

図 11 は、インターンシップ先企業の実習内容に関して、訪問教員が 4 つの問に対して回答した結果を示している。4 つの問とは、(a) 実習内容は教育的であったか、(b) 実習プログラムは充実していたか、(c) 指導状況は良好か、(d) 指導困難な様子はなかったか、である。図 11 に見られるように、全ての項目において、「そう思う」、「ややそう思う」の評価合計が 84.6%~90.9% の高い値を示している。この値もほぼ昨年度と同じである。この結果から、実習内容や、企業の指導者と学生の関係は、第三者である教員から見ても、概ねポジティブなものであったといえる。

なお、「(d) 指導困難な様子はなかったか」という項目に対して、「そう思わない」が 3.1%、実数で 2 人の教員から回答されているが、この結果に対する解釈は慎重にならなければならない。なぜなら、「そう思わない」と回答した教員の個別の所見では、(d) への回答とは逆に、学生の関心に沿った内容を用意して頂けたので学生にとって「非常に大きい」意義があったと考える、とか、教育実習プログラムは「大変充実」していた、という回答が見られたからである。昨年度も一部に同様の傾向が見られた。このことは、(d) の質問項目の表現について修正が必要であることを示唆している。実際に今年の教員アンケートでも、(d) 「学生の指導に困難な様子はなかったか？」という文言は、困難が「ない」としたときに「そう思う」と答えるのか、「そう思わない」(=困難があると思う) なのかの判別ができない、という指摘が 1 件あった。この点は昨年も指摘されていたが、適切な修正が間に合わなかったということになる。早急な対応が必要であると思われる。

最後に、訪問教員による訪問所見をまとめる。昨年度と同様、多くの教員はインターンシップの効果に関して

肯定的な意見を提出していたが、一部ではあるが以下のように今後解決すべき意見も散見された。

- ・実習期間が 3 日間と短いためプログラムがやや消化不良になりそうな印象だった。
 - ・先方は忙しくて、挨拶だけに行っても先方の迷惑であると感じた。
 - ・(教員が訪問した際に) 現場を訪問したので多忙な様子だった。
 - ・大変お忙しい中でのご対応であるのが明らかで、訪問しない方が先方にとって良かったかもしれないと感じた。
 - ・インターンシップの目的を受け入れ側がどのように理解しているか、受け入れてくれる場所や担当者との事前の十分な打ち合わせが必要と感じた。
 - ・(インターンシップは) 初めての企業であったので、戸惑っているようであった。初めての企業には丁寧な説明も必要では。
 - ・(企業側は) 来年度以降もインターンシップを継続しても良いが、学生にはスタッフが付いて指導しなければならないため、受け入れ人数は 1 人が限界、と言われた。
 - ・学生の実習態度は作業が速いとの評価であった。しかし声が出ない笑顔が少ないとの感想であった。
- 一部ではあるが、これらの意見から、本学と受入企業とのより綿密な事前打ち合わせが必要な場合があることや、本学教員の訪問方法の改善、また、本学学生の資質向上の必要性など、インターンシップの実施に関してなお課題があることも伺える。このような貴重な意見を基に、来年度以降のインターンシップを、就職活動の支援、就職への意欲向上、そして学生の今後の社会人としての活動の糧となるように、種々の改善を行っていきたいと考える。

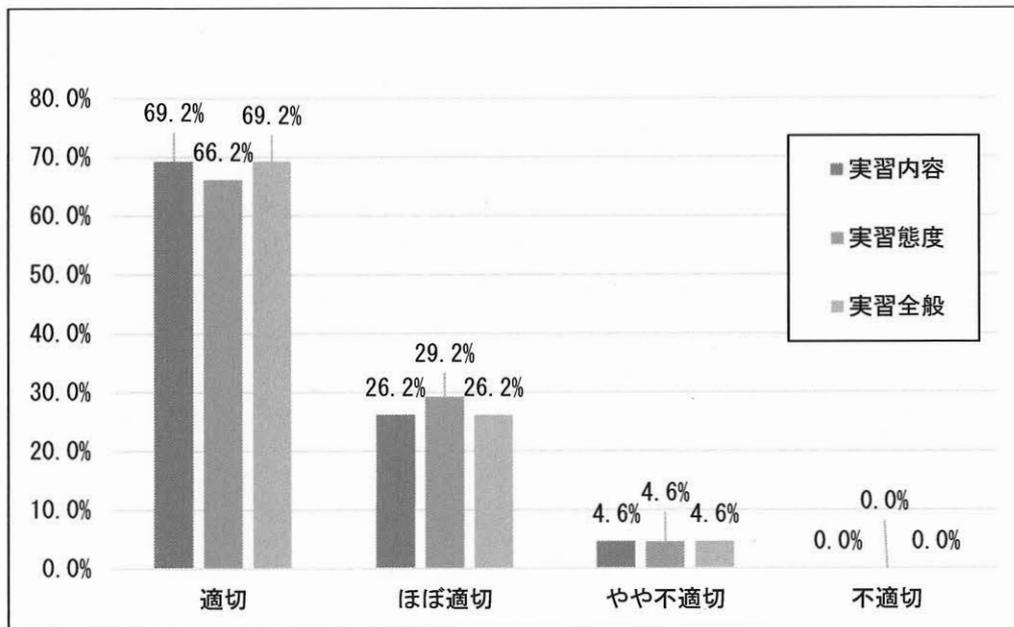


図 7 受入企業担当者によるインターンシップへの評価

表7 インターンシップ実習生に対する個人別評価の所見

＜好評の所見＞

- ・ 初日から、あいさつができて良い印象をもてた。コミュニケーションもよくでき、いろいろな人と話ができている。
- ・ やや線が細い感じはありましたが、協調性が特に良い感じに感じました。また知りたい事があれば、要望して来るなど積極的にインターンシップ期間を過ごしていたと思います。
- ・ システム設計の経験はないとのことでしたが、臆せず積極的に課題に取り組んでいました。加えて、協調性もあり、チームのメンバーとの連携も良くとれていたと思います。最終的には自分なりの工夫を凝らしたシステムを作成することができました。また、質問をするときは、単に答えを求めるのではなく、自分の意見を述べてくれたのは非常に良かったです。最終日の発表会でも、自分なりの考えを言えていたため、社員や他の学生からも賛同を得られていました。
- ・ 作業をしながら考えて動いていた様子がうかがえました。
- ・ 自分が率先して行動しようとするやる気がうかがえました。
- ・ 初めての3次元CADにも関わらず、講師の指導をしっかりと理解し、期待水準以上の成果を出してくれました。
- ・ 大人しい性格で目立たない存在でしたが、作業は堅実に取り組み、成果も期待水準に達していました。
- ・ 取り組み姿勢は全般的に良好でした。失敗を恐れず積極的に発言・質問できるようになると、一段と成長できると思います。
- ・ どんどん積極的に動き行動力がある面が強みであると感じました。他大学のインターンシップ生や当社社員ともコミュニケーションが良く取れていました。10日間の実習お疲れ様でした。
- ・ 研修の初めは、緊張からか暗い顔をしておりました。途中から慣れてきて明るい雰囲気になりました。非常によく考え行動し責任感を感じました。
- ・ 初日と最終日の笑顔はまるで別人のようでした。日本人は礼儀作法がしっかりと出来る人には仕事が出来る云々の前に評価するものです。是非、笑顔で元気の良い挨拶を習慣にしましょう。
- ・ 短い期間でしたが、スタッフの一員という自覚を持ち、積極的に動いていただきました。また、その時々で状況を判断し、お客様のちょっとした反応や要望にも、柔軟な対応と丁寧な接客をすることができました。
- ・ 真面目に人の意見を聞き、手帳に記入していました。誠実にコツコツと作業をしていただきました。
- ・ 挨拶や接遇などについてしっかりとでき、終始前向きな態度でのぞんでいました。公務員の仕事の一端について、理解していただいたのではないかと思います。
- ・ コミュニケーション力がもう一人の学生よりやや劣るが、その他の点に関しては、上出来でした。
- ・ 実習態度は良く、メモを良く取れていたのが大変良かったと思います。長い期間でしたがお疲れ様でした。
- ・ 多くの気付きができる学生で将来が楽しみであります。
- ・ 積極的に取り組む姿勢が見られました。ご本人が気づかないところで姿勢が崩れるところがありますが、その点も真摯に受け止め改善ができています。がんばって下さい。
- ・ 日々新たなりで成長をしておりました。是非、継続は力なりで頑張っていたいただきたいと思います。
- ・ 興味を持って研修にのぞんでいました。
- ・ 慣れない場所で緊張しながらの実習でしたので、心身ともにお疲れの事と思います。ご苦労様でした。
- ・ 短期間、広く浅くの実習で大変だったと思いますが、真面目に取り組んでいただきました。作業を行う際に焦らず一つ一つ落ち着いて取り組む姿がみられました。
- ・ ITの知識もあり優れていると思います。
- ・ 慣れない環境で緊張している中、しっかりと自分の言葉で物事を伝えようとする前向きな姿がみられました。
- ・ 声が小さい点が気になっていたが最後の成果発表は堂々と発表出来ていた。
- ・ 課題を進める上で積極的に質問をしてくれた。成果発表は内容も発表態度も素晴らしかった。最初に決めた事で立ち止まらず進んでしまう面もあったので途中で確認、振り返りをしながら進める事も必要です。
- ・ 言葉づかい、返事ははっきりされており、礼儀をわきまえた行動に好印象を持ちました。今回の実習ではマイコンが何らかの理由により破壊してしまい、目標としていた成果を得られませんでした。設計試作を行う上での注意点等は学べたものと思っております。今後のご活躍を期待しております。
- ・ 言葉使い、返事ははっきりされており、好印象を持ちました。成果を出すための積極性は強く、良かったと思います。今後のご活躍を期待しております。
- ・ 1時間30分以上の通勤時間にもかかわらず、一度の遅刻も無く、会社のボランティア活動にも積極的に参加してくれました。おとなしめで派手な性格の人間ではありませんが、控えめな笑顔を絶やさず、社員も好印象に受け取っています。本人の希望でもあるようですが、デスクでじっくり取り組むような仕事が合っていそうです。2週間は、あっという間でしたが、本当にご苦労様でした。と同時に若い風を入れてもらいありがとうございます。
- ・ 常に笑顔で好印象でした。就職の検討先の1社として頂ければと思います。

- ・ まじめに取り組み、習熟が早くテキパキと作業を行っていました。
- ・ 個人情報も多く扱う市役所のシステム全般を総括する部署であったことから、あまり根幹のシステム業務について研修してもらうことができず、研修生にとっては少々物足りなかったのではないかと思います。しかし、研修部署が総務課であったため、システムだけでなく市役所業務の基本について学ぶことができたと思います。研修生本人も非常に真摯に研修に取り組み、大変良かったと思います。
- ・ 毎日朝から夜まで一生懸命動いてくださいました。自ら学ぼうとする姿勢も見られ、こちらも指導のし甲斐がある学生さんでした。今後のご多幸を、心よりお祈りしております。
- ・ 飲食店でのアルバイト経験があるせいか、挨拶・接客が上手でした。
- ・ 期間中、頑張ってくださいました。事前に「中食産業」のこと、「パローグループ」についてお互いに話し合いがしたかったです。
- ・ 短期間の研修で、設計（作図）から機械加工、組立と一通り行い成果物もできました。良い技術者になるには、これからの経験と勉強による知識の吸収の積み重ねになると思います。弊社での経験を今後に生かして欲しいものです。たいへん良くがんばったと思います。
- ・ 常に先のことを予測して行動することができ、周囲への気遣いも評価できるものでした。また、派遣先で専攻の分野に関連した事業を行っていたこともあったことから、大変積極的に取り組んでいた様子がうかがえました。
- ・ 積極的に業務に取り組みました。仕事の意味や全体像をイメージすることができ、創意工夫がみられました。様々な業務を依頼されても、的確に処理することができました。挨拶、返事もしっかりとっていて、業務に対する前向きな姿勢が感じられました。
- ・ 電車遅延により遅刻しましたが、事前に電話連絡を入れてくれました。連絡してこない学生もいるなかでしっかりしていると思いました。
- ・ 全体としてはとてもよく業務をこなす指示に対しても理解が早いなどよくできています。
- ・ 会社から出された課題に対し、積極的に取り組むことが出来ました。また、分からない部分は自分で対応策を考えようで相談することが出来ました。
- ・ 決められた期間内で結果を出すことが出来ました。思い通りにできない部分があっても、原因と対策を自分で考えようで、相談することが出来ました。
- ・ 社交的な性格のおかげで、多くの職員から様々なことを教えてもらえたと思います。ただ一方的な情報の提供となってしまうため、どの程度保健福祉センターの役割を理解していただけたか、少々不安が残りますが、全般的には、積極的な態度で研修に臨むことができたと思います。
- ・ 他校生を含め計4名での実習でしたが、4名の中では一番知識がありました。今回の弊社における実習で、自分の未熟さと学校での勉強が基礎に過ぎないことを実感していただけたようですので、今後の成長に期待いたします。
- ・ 勤務態度、作業内容、共に良かったと思います。疑問点についても、都度、質問があり、積極性がありました。
- ・ まじめに業務に取り組んでいただきありがとうございます。
- ・ 態度や周りに対しての接し方に好感がもてて、みんなに可愛いがられていました。積極的に質問をするなど、内容も的確で良かったです。
- ・ 積極的に質問する姿勢があり、課題（スケッチ、作図）作成も早くこなすなど充実した実習だったと思います。
- ・ 弊社スタッフとペアで作業を行った際は、作業手順を把握しスタッフの先を読んでサポートやフォローを行っていた。全体の理解力が高いだけでなく、指示待ちにならず積極的に行動していたところを、弊社スタッフも褒めていました。自動車整備という本人が興味のある業種ではないにも関わらず、2週間前向きに取り組んでくれました。ありがとうございました。
- ・ 明るく元気な性格で、特に、理解力が良く、非常に優秀であると感じました。
- ・ 5日間、真面目に作業に取り組んでいました。
- ・ 朝は、30分前には出勤し、真っ先に仕事に取り掛かっていた。挨拶もはきはきと出来ていた。仕事に対しても真面目で就業時間が過ぎても完了するまで真剣に取り組んでいた。身なりも指示した通り完璧の服装でした。全体的に人間として完成されており社会人として今すぐに働ける人物であると思われま。5日間という短い期間であったため一人の人間として評価することは難しいとは思いますが、ここ数年の生徒でこんなにも真面目で律儀な生徒を見るのは初めてでした。
- ・ 大変、真面目に研修に参加いただけたと感じています。はじめはやはり遠慮しているようにも感じましたが、次第に環境にも慣れ積極性も感じました。
- ・ 非常に集中して研修のカリキュラムをおこなっていたように思います。他校からのインターンシップ学生や、社員とも円滑にコミュニケーションも図れていたように感じました。
- ・ 難しい業務にも前向きに取り組んで頂きました。
- ・ 好奇心があり良い学生でした。
- ・ 積極的に仕事に取り組めました。
- ・ 目的意識をしっかり持って実習に取り組まれていましたが、コミュニケーションがとても難しい高齢者のケアですので、どうして良いか戸惑ってしまった感がとてもあって苦労されたと思います。

- ・ 本人と事前に話した際、知らない人と話をするのはどちらかというと苦手と書いていたのですが、全てのセッションで不明な点はすぐに質問するなど非常に積極的に取り組んでくれていました。
- ・ 最初はおとなしかったですが、すぐに他の実習生とも打ち解け、前向きに、積極的に取り組んでいただけました。
- ・ 他の実習生とも協調し、前向きに、積極的に取り組んでいただけました。
- ・ 「葬祭」という未知の業界での経験だったと思いますが挨拶はしっかりと出来、現場担当からも一つ一つの仕事を誠実に行ったとの報告を頂いております。今回のインターンシップを今後活かして頂きたいと思います。
- ・ 2年生という事で、まだ就職についてもこれから考えてく、という感じでしたので将来を考える上で今回の研修が少しでも役に立てば、と思います。他の生徒さん同様、挨拶は出来ていましたし、分からないなりに教わったことをしっかりやるという姿勢で頑張っていました。
- ・ 与えられた課題/作業をこなすことについては問題ありません。最初は緊張が伝わりましたが、徐々に周囲と打ち解け、カリキュラムに真剣に取り組まれていました。とても真面目で誠実にコツコツ作業を進めておられた印象です。協調性もあり、人前で自分の意見をしっかりと述べる事ができました。話す前に内容を整理できれば、なお良くなると思います。
- ・ 謙虚な姿勢ながらも積極的に周囲とコミュニケーションしたり、講師に質問するなど、意欲的にカリキュラムに取り組まれていた印象があります。最終日のプレゼンでは少し緊張され、本来の力を出し切れなかったかもしれませんが、ご自身のキャラクターで十分にカバーされていました。
- ・ 社交的で周囲とよくコミュニケーションを図り、グループワークではリーダーシップを発揮されていました。全体発表では一番手で発表をしたり、堂々と自分の意見を述べたりと、積極的な姿勢を伺うことができました。現在の情熱・姿勢を失わず、ビジネスコミュニケーションを磨けば、なお良くなると思います。
- ・ 実習開始前から弊社についてよく調べてくれており、実習中も前のめりになって業務に参加してくれていました。新規開拓の営業電話で、企業様に一生懸命電話がけをする姿に他の社員一同も良い刺激を受けました。
- ・ はきはきと大きな声で話をしていた点が良い。質問も積極的に行き、やる気を感じた。全体的に非常に好感が持てた学生さんでした。
- ・ コミュニケーションが上手に取れていました。実習中の課題も真剣に取り組みができておりました。
- ・ 積極性があり態度も良く印象は良かった。仕事に関しては、まじめで指示した事は確実に進んでいた、一緒に作業したリーダーからも良い評価でした。少し大人しいので声を大きく話し話をすればもっと良くなると思います。大変良い生徒さんでした。
- ・ 仕事に対して積極性が見受けられた。率先し言葉を発してアピールしていました。
- ・ リケジョのメンバーとして、日頃からまちづくりに関心を持っているため、今回のインターンシップについても積極的に取り組めたのではないかと思います。シティプロモーションは、市としても取り組みが画一できていない業務でもあり、事業効果が不明な点多々ありますが、市民の皆さんの理解と協力が不可欠な事業であります。今後も本市事業にご協力いただきたいと思います。

<問題点の指摘があった所見>

- ・ 接客業なので、もう少し積極的に挨拶が出来ると良いと思います。
- ・ 集中力に欠ける面がありますが、今後のご本人の取り組み姿勢の改善に期待したいと思います。
- ・ 日本人は礼儀作法がしっかりと出来る人には仕事が出来る云々の前に評価するものです。是非、笑顔で元気の良い挨拶を習慣にしましょう。
- ・ たいへん真面目であるが、より積極的に自分を出してもらっても良いのではと判断される。
- ・ まとめのレポートなどがメモの羅列になり、何を学んだのか分からなかったかも知れません。自分の言葉で書き、何を学んだのか深掘りして書き、自分なりの意見を加えるとさらに良いものができると思います。
- ・ 研修中に居眠りをしていました。
- ・ 大きな声でコミュニケーションをはかることで、より立派になると思います。
- ・ 集中作業出来た点は問題無いが、周りに聞くタイミングを逃したり、課題に対する時間配分がうまく行っていない事があった。
- ・ おとなしく積極性に欠ける印象がありましたので、就職活動ではもっと貪欲な姿勢を見せたほうが良いでしょう。
- ・ 依頼した事項を忘れてしまう等、一緒に受けた実習者への配慮がもう少し有ると良かったと感じました。
- ・ 今回は、実作業というのはあまりさせてあげることができませんでした。まだ就職活動も本格的にしていないこともあり言葉づかいや姿勢については改善していければいいと思います。
- ・ いろいろな場面で少し誤解を受けそうな態度が見受けられました。おそらく、悪気は無いと思いますが、実習も1日ずらした最終日まで出てほしかったです。
- ・ 厳しい見方をすれば、話し方が不適切なシーンがありました。誤解を受けない為にも、社会でどう人と接して行くべきか、今後意識して経験も積んでもらいたいです。

- ・挨拶等, 全般的に声が小さい. メモを取るという事に慣れていないためか, 打合せや指導の際, 自分からメモを取っていなかった.
- ・全般的に声が小さい. (挨拶は元気よく)
- ・現場での実習を予定していましたが, 天候の都合と本人の適正を鑑み, 総務部でのデスクワーク実習に変更しました. 卒業までに, 挨拶, 返事, 身だしなみ等を身につけていただきたいと思います.
- ・ひとつだけ残念だったことは, 後半に風邪で体調を崩し, 業務を予定通り行えなかった点でしょうか. 体調管理も仕事のうちと捉えてゆくこともいいでしょう.
- ・全体評価でも記載しましたが, 学校での講義レベルに止まっており, プラス・アルファの知識/技術力がなく技術者としては魅力に欠けるように感じました.
- ・静かでおとなしい印象でしたので, 今後の就職活動では自己アピールを意識的に行うことを心がけていただきたいと思います.
- ・コミュニケーションについては, 積極的に取るタイプではないと感じました.
- ・お疲れ様でした. もう少し声を出しましょう.
- ・特に問題なし. 言われたことはしっかりとやれたと思います. ただ, この業態にはあまり関心が無いような感じを受けました.
- ・笑顔, 挨拶を積極的に行えるようになってもらいたいと感じました.
- ・インターンシップの以前に同事業所で暫くバイトをしていた為に挨拶・積極性に欠けた姿が見受けられた.

9. 平成 28 年度インターンシップのまとめ

本年度のインターンシップの取り組みを振り返り, 以下のようまとめ.

9. 1 事前研修について

今年度の事前研修は, 一昨年度, 昨年度と同様に 3 回とした. 全学的にもキャリア支援教育も進んでいることから, 回数については 3 回の事前研修で必要十分であると考えられた. 参加者数については, 昨年度から特に第 1 回事前研修への参加者が 200 名を超えるようになり, 本年度は 231 名の参加となった. 特に第 1 回事前研修については, 今後とも本年度と同様に 300 講義室以上に大きなキャパシティのある講義室の確保が必要である. なお各学科, 学部別の学生の参加率についてみると, 総合情報学部の 2 学科については, いずれも昨年度の参加者数を若干上回ったが, 理工学部の 3 学科 (機械, 電気電子, 物質生命) については昨年度の参加者数より下回っている. とはいえ, 全体的に参加社数が高止まりしていることは確かであり, インターンシップ参加が就職活動のマストになりつつある昨今の状況を学生自身は理解していると思われる. このような好状況を生かすべく, とにかく第 1 回の事前研修には参加してもらえるように, ガイダンスの機会なども活用して様々な方法で学生へのアピールを今後も強化すると共に, 社会人としての自覚を促す必要がある.

9. 2 実習受入れ企業数について

今年度は依頼企業の状況を分析し, 受入れの可能性のある企業に絞って依頼を行った. また, 卒業生の就職先の中からもインターンシップ受入れの可能性のある企業を選別し, 昨年度より若干少ない計 523 社に依頼を行った. この結果, 136 (昨年度は 104) 事業所, 277 (同 228) 名分の実習テーマ受入申し込みがあった. このように, 受入企業社数, 人数については, 昨年度を上回る数の実数を用意し, 本年度のインターンシップ参加者数は過去最高を記録するに至ったものの, 大学の講義のノリで出席すればよいという感覚で参加する学生が増えたことは残念である. インターンシップ参加が就職活動のマストになった昨今の状況を本学の学生にも広く自覚させ, 質の高いインターンシップ体験になるようにしていくためには, 事前のマッチング会や助言教員の企業訪問を通じて, より厳しい, ためになる実習を企業サイドにもお願いしていく必要がある.

9. 3 インターンシップ実習の評価

受入れ企業および学生自身の評価においては, 例年「積極性」, 「コミュニケーション能力」などの不足が指摘されているが, 2015 年度からはこれに加えて「創意工夫」と「積極性」の不足についての指摘が大幅に増加した. もちろん学生個人による差が大きく, 学生の大半は真面目に参加しているのだが, 社会人基礎力以上に学力の低下を指摘する声が聞こえてきたことを考えると, インターンシップの事前研修ではハッキリと「大学の講義とは異なる社会人体験」であることを訴え, 1 年生からの地道な学習積み上げの重要性を認識させる必要がある. 入学時からのキャリア教育全般や, PBL, アクティブラーニングの手法などを取り入れた初年度からの地道で継続的な指導がますます重要であると考えられる. 大学全体として, さらなる改善に取り組む事が必要である.

9. 4 その他

これまで, インターンシップ報告会については 10 月から 12 月まで, 様々な時期に開催してきたが, 12 月では実習終了からの期間が開きすぎているという意見が多く出されていた. 他方, 報告会ではできるだけ学生および企業担当者双方の印象に残っている間に開催することが望まれるので, その点では 10 月の開催には利点があった. しかし, 10 月開催ではプレゼンテーションで報告を行う学生の指導を依頼した助言教員の一部からは, 準備期間が少なすぎるという意見もあった. このため, 本年度の報告会については 11 月 7 日に行った. 次年度以降の報告会についても, 10 月末から 11 月上旬の間に開催することが望ましいと考えられる.

なお本年度のインターンシップ実施に際しては, 例年以上に積極性, 創意工夫, 学力の不足を指摘する企業が増え, 学生の資質や態度の問題等が指摘されている. さらに過去においては挨拶に訪問する教員の対応等の問題が指摘されたこともあった. 今後も事前研修等で, 学生にその点を徹底するとともに, 教員各位に依頼する際にも, 念のため丁寧な対応について, ご配慮いただくよう改めて依頼するとともに, しっかりした指導を企業にお願いしておく必要がある. 今後も事前研修や日常の教育の機会を活用して, 一人の学生の態度が, 本学全体の評価を下げることも, また向上させることもあるという点について指導していく

ことが大切である。本年度は幸い実習中の事故や怪我の報告は皆無であったが、慣れない環境において、学生が事故を起した事例もあることから、来年度以降も、事前研修等を通じ、事故発生防止の指導を徹底していく必要がある。

最後に、様々な大学の先行的な事例によって、より長期のインターンシップや海外インターンシップなどが学生のキャリア教育に大きな効果をもたらすことが明かになってきている。また、就職活動の一環としての企業独自のインターンシップ活動も盛んになりつつある。インターンシップで企業とより深い関わりを学生に持たせることについては、正課の授業との両立や海外の安全面の確

保、費用負担等の問題もあるが、コミュニケーション能力の高いグローバル人材への産業界の要望も年々強くなっていることから、本学に相応しい、質の高いキャリア教育のあり方について、今後のさらなる検討が必要であると考えられる。

10. 謝辞

本年度のインターンシップ・プログラムを実施するにあたり、ご協力をいただいた企業および事業所の担当者の皆さま、報告会で発表をご担当いただいた皆さんに心から感謝致します。

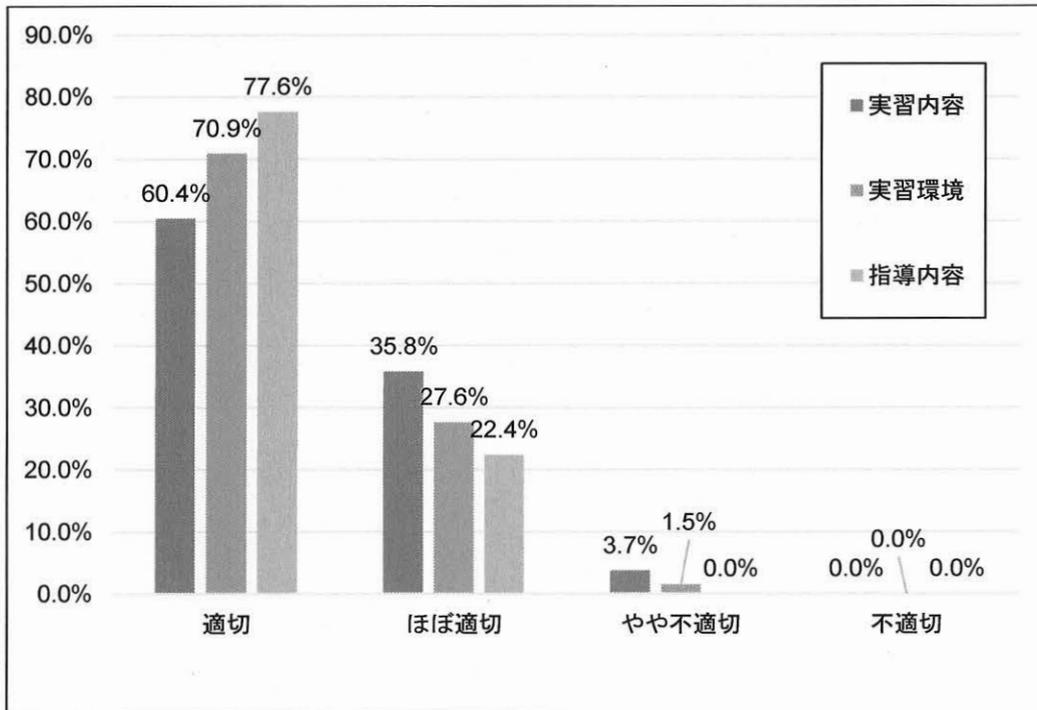


図8 参加学生による実習内容、環境、指導内容への満足度

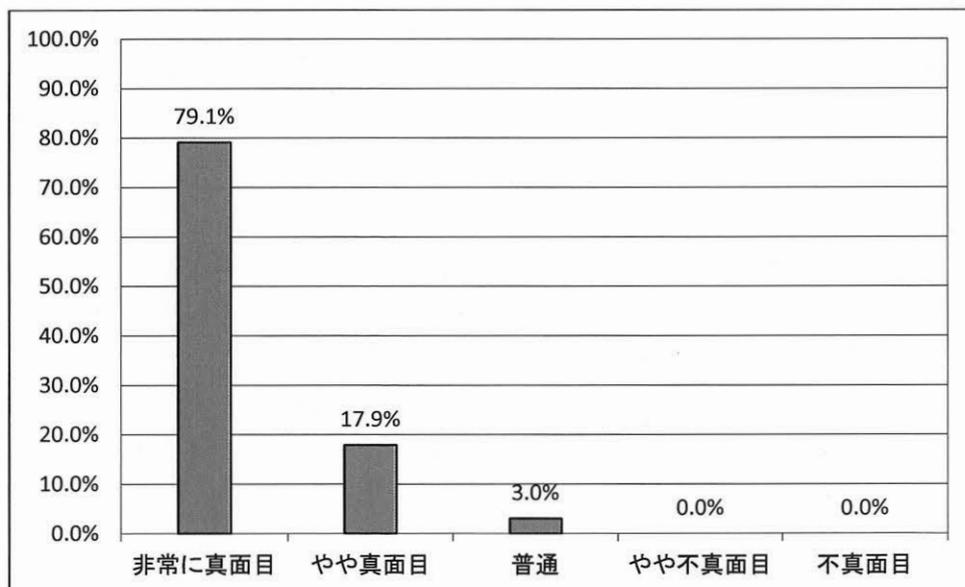


図9 実習学生の取り組みに対する訪問教員の評価

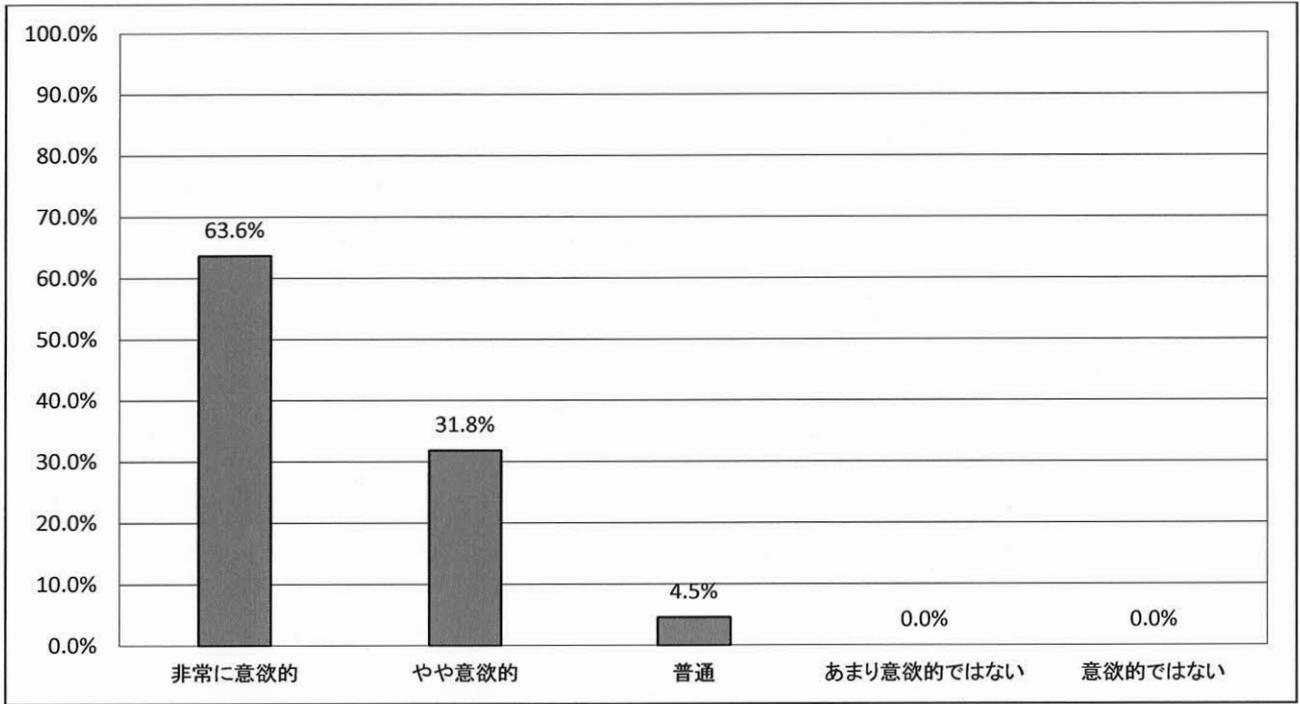


図 10 実習生の意欲に対する訪問教員の評価

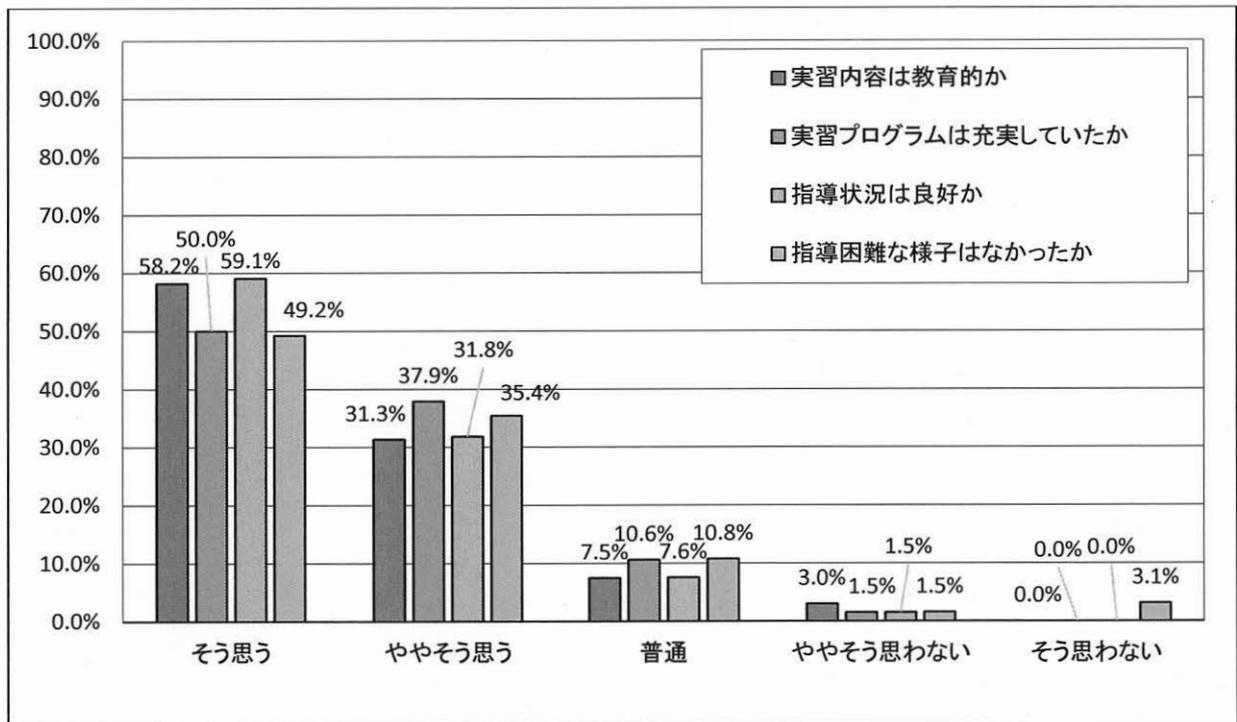


図 11 訪問教員の受入事業所への評価と要望

参考文献

- 1) 文部省編, インターンシップ・ガイドブック, インターンシップの円滑な導入と運用のために, 1998.
- 2) 丹羽昌平 他, インターンシップで学生は何を得たか?—平成14年度インターンシップ実施報告—, 静岡理工科大学紀要, 第11巻, 2003, 281-303.
- 3) 丹羽昌平 他, インターンシップ実施5年間のまとめとこれからの展望—平成15年度インターンシップ実施報告—, 静岡理工科大学紀要, 第12巻, 2004, 299-320.
- 4) 丹羽昌平 他, 平成16年度インターンシップ実施報告—インターンシップの教育効果の向上のために—, 静岡理工科大学紀要, 第13巻, 2005, 95-104.
- 5) 丹羽昌平 他, 地域社会との連携による実習体験教育, 工学教育, 第53巻第4号, 2005, 23-29.
- 6) 惣田昱夫 他, 平成17年度インターンシップ実施報告—事前教育の充実による教育効果の向上—, 静岡理工科大学紀要, 第14巻, 2006, 163-174.
- 7) 富田寿人 他, 平成18年度インターンシップ実施報告—キャリア教育メイン・プログラムを目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第15巻, 2007, 127-139.
- 8) 富田寿人 他, 平成19年度インターンシップ実施報告—参加学生の増加を目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第16巻, 2008, 117-129.
- 9) 富田寿人 他, 平成20年度インターンシップ実施報告—参加学生の増加を目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第17巻, 2009, 163-174.
- 10) 山庄司志朗 他, 平成21年度インターンシップ実施報告—参加学生の増加を目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第18巻, 2010, 145-155.
- 11) 山庄司志朗 他, 平成22年度インターンシップ実施報告—参加学生の増加を目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第20巻, 2012, 119-131.
- 12) 石田隆弘 他, 平成23年度インターンシップ実施報告—参加学生の増加を目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第20巻, 2012, 107-118.
- 13) 石田隆弘 他, 平成24年度インターンシップ実施報告—貫したキャリア教育を目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第21巻, 2013, 153-166.
- 14) 奥村哲 他, 平成25年度インターンシップ実施報告—より多くの学生のためのキャリア教育を目指して—静岡理工科大学紀要, 第22巻, 2014, 105-119.
- 15) 奥村哲 他, 平成26年度インターンシップ実施報告—より多くの学生のためのキャリア教育を目指して—静岡理工科大学紀要, 第23巻, 2015, 163-177.
- 15) 幸谷智紀 他, 平成27年度インターンシップ実施報告—質の高いキャリア教育を目指して—静岡理工科大学紀要, 第24巻, 2016, 110-125.